



明日へ

平成25年6月30日発行

児童養護施設 鎌倉児童ホーム

(発行責任者 施設長 秦晴彦)

〒248-0017

神奈川県鎌倉市佐助1-6-6

電話 0467-22-0424

夏空がひときわまぶしく感じられる季節となりました。皆様はいかがお過ごしでいらっしゃいますか。

広報誌「明日へ」が第10号となりました。前回の発行から約1年が経過いたしました。平成25年度から、コミュニケーション委員会を立ち上げ、委員会では年に2回の発行を行うことを目標に活動を開始いたしましたので、発行部数も伸びていくと思います。

先日、ゴールデンウィークを利用して卒園生が暮らすある地方の観光地に行ってきました。卒園生に会って、鎌倉での生活と今の場所での違いを聞いたところ、「鎌倉とあんまり変わらないけど、時間がゆっくりと流れているから、今の土地のほうが好きかも…」との答えが返ってきました。鎌倉は時間の流れが速く感じるんだと少し複雑な気持ちになりましたが、地方の魅力につられ観光してきて、鎌倉は素晴らしく魅力に満ち溢れた土地であることを再認識して帰ってくることができました。鎌倉の良さを卒園生のほうがよく理解していて、少し恥ずかしい気持ちになりました。さらに、卒園生が力強く暮らしている姿を見て、「子どもたちが暮らしているうちに、もっともっと出来ることをせねば」と思いを新たにしてきたところです。

前号にも述べさせていただきましたが、児童養護施設では様々なご支援が不可欠だと感じておりますので、ボランティアの皆様、ご寄付をいただける皆様をはじめ、子どもたちが通う学校関係者の皆様、地域の皆様に様々な形でサポートをしていただけることに本当にありがたい気持ちです。

非常に厚かましいことだと承知しておりますが、今後とも同様のサポートをお願いしつつ、この広報誌「明日へ」を通じ、等身大の鎌倉児童ホームを皆様に伝えられればと思います。



第84回園の友会 記念撮影

鎌倉児童ホーム施設長 秦 晴彦



過去の記録が掲載されている
「明日へ」6号と9号も
ご参照ください

チャレンジ!!チャリ日本一周中間報告 ～平成24年度編～

平成24年度は8月に幼稚園児から小学2年生までの計11名がチャレンジしました。2泊3日の間に「新潟県・富山県・石川県」の沿岸、計440kmを1人当たり約50キロは走破いたしました。

今回のチャレンジを含め、これまでの総走行距離は北は青森県から南は山口県と高知県までの計3949kmとなりました。

自転車旅行は小中学生が中心となりがちですが、旅の楽しみを年少児や多忙な高校生とも共有したいので、「チャレンジ!!チャリ東日本塗りつぶし」も同時開催していくかもしれません。

今後も応援のほど、よろしくお願いいたします。(豊本)

「学校（地域）との連携」

山崎 弘嗣

わが国における江戸時代の犯罪発生率は、同時代の他国と比べてみると、人口の割に桁違いに低かったという。理由は諸説あるようだが、その一つに「強固なコミュニティー」の存在が挙げられる。当時の社会は、コミュニティーを一つの単位とした共同社会で、その色合いは現代より遥かに濃く、人々が互いに協力し合うことで社会が成り立っていた。そのような社会の中での子育ては、人々の間で様々な事柄が「筒抜け」になっていて、良きにつけ悪しきにつけ、多くの人々がつながりを持っていたことだろう。

私たちは、鎌倉児童ホームの養育でも、その“筒抜け”が大切であると思っている。

なぜなら、私たちは、子どもたちのニーズの多様化や深刻化・現行制度の困難さに日々直面していて、「学校の先生方やボランティアの方々・地域の方々・広くは社会全体のお力添えを頂かなければ、子どもたちを養育することはできない」と痛感しているからである。そして、その時にこそ、連携という名の“筒抜け”が大切になると思っているのである。

特に、子どもたちと密接な関わりを持ってくださる学校の先生方とは、日頃の連携が欠かせないと思っている。

鎌倉児童ホームでは、週に一度の職員会議の場に小中学校の先生をお招きし、情報交換に努めている他、必要に応じて毎日、連絡帳等で個別のやり取りを重ねている。また、今年度は、小学校の各学年の保護者懇談会で、保護者の方々に日頃の感謝の気持ちをお伝えするとともに、あらためて鎌倉児童ホームの現況をお話しする中で、ご理解とご協力を呼びかけさせて頂いた。

日本には、「向こう三軒両隣」という美しい言葉がある。私たちは、コミュニティーの力をお借りしながら、養育の向上により一層の努力をしていきたいと思っている。



お世話になっているボランティアさん 第1回

齋数里美 様 (習字教室ボランティア)

齋数さんは、月に2回、会社を退社された後の18時半より、当ホームにて、習字教室を開いてくださっています。

現在は高校生1名、中学生3名、小学生7名が参加しています。

日頃は腕白な子どもたちも教室では集中して取り組んでいます。

子どもたちは日本総合書芸院に所属し、段を取得する子もいます。先生のご指導のおかげで上手に字をかけるようになったことで、自信につながり、他のことも頑張れるようになりました。当ホームの夏祭り、クリスマス会、卒園式などでも各種看板の文字を心を込めて書いており、行事を盛り上げてくれています。

各展覧会出展後には出展作品を事務所付近に展示しておりますので、ぜひ、ご覧ください。(宮崎)



今年もディズニーランドに 連れて行ってもらいました!

3月16日に特定非営利活動法人アニーこども福祉協会様からのお呼び掛けにご賛同いただいた、インフォプレナーズジャパン株式会社様、株式会社ウィル様からのご招待により、当ホームの子どもたち35人（幼稚園の年長から小学6年生まで）がディズニーランドに行くことができました。

皆さまには、入園料や移動費用などのご負担ばかりではなく、引率スタッフとしてもご同行いただきました。

当ホームの日頃のお出かけは、職員1人で10名近くの子どもたちを引率することも珍しくなく、大人数での活動ばかりです。当日は子どもたち2名～4名のグループにボランティアスタッフが数名ついてくださったので、不安だったアトラクションにも余裕を持って挑戦することができました。

引率人数の多さには様々な利点があり、子どもたちにとっては、アトラクションを楽しむばかりではなく、「ずっと手をつないでもらった♡」「いつもは我慢しちゃいそうなことも我慢しなかった♡」など、たっくさ～ん甘えさせていただいたことも含めて大切な思い出となりました。

また、当日は迷子がでてしまったり、子どもが財布を落としたというハプニングもありました。しかし、迷子の子どもも、財布を落とした子どもも、すぐに近くにいた大人（ディズニーランドのスタッフや同じグループのボランティアさん）に相談することができたので大事件にはなりません。このように困ったことを他者に相談する力は自立に必要なことであり、子どもたちにとってはとても大切な経験です。…とはいっても、職員にとっても一大事なので、ヒヤヒヤしましたが、今回は、ボランティアスタッフの皆さまのおかげでハプニングを楽しむ余裕も生まれました。

アニーこども福祉協会代表の大原信子様には2008年にお声をかけていただいて以来、今回で6回目の招待となりました。毎年、ディズニーランドかディズニーシーのどちらに連れて行っていただいており、子どもたちの中でも恒例行事となりました。子どもたちは連れて行っていただいた直後から「次に行った時は何に乗ろうかな」「おみやげを買いたいから自分のお小遣いを貯めておこう」などと、先々のことを思い描きながら、次回のお誘いを心待ちにしております。このような活動を通じ、子どもたちに大切な思い出を作っていただくばかりではなく、「こんにちは」「ありがとうございます」と人への感謝の気持ちに気づくことができる子どもたちに育てる機会もいただけていることに、当ホームの職員一同、感謝しております。（宮崎）



大人になったら覚えていないかもしれないけど、確かに存在した出来事の数々。それが・・・

T H E 日 常

(構成 豊本)

「第〇代目セロテープカッター」

「年間、平均購入台数6台」と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？
実は、これ、「恵の家のセロテープカッター」についての話なんです!!!

(ちなみに大人専用のセロテープカッターは勤続4年です)。

買い替えのきっかけは「**落としてしまった**」などの偶然から、
「**ひっばい過ぎた???**」「**怒って、投げちゃった**」など、多岐にわたり、
100円ショップに行くたびに、無意識のうちに陳列棚の方向に足を運んでしまうほどの頻度です。

しかし、不思議なもので、セロテープカッターが壊れずにいると、
「**子どもたちが安定しているのかな**」と安心しながらも、
「**頑張りすぎてない?**」「**どこでストレスを発散しているの?**」などと、
気にもなってしまうようです(^_^)。

恵の家の「今」を知る、意外なバロメーターでもあります。



現役セロテープカッターとどもん

※写真のお子さんたちと

記事の内容とは無関係です(^^;;)。

目指せ、エビぞりジャンプ!!

～みんなの頑張りを紹介するコーナーです～

- ・嫌いな「トマトを」食べれるようになったよ!! (ゆうと・5才)
- ・サッカーでシュートを決めたよ!! (きんや・7才)
- ・神奈川県のレストラン大会で「優勝」したよ!! (まひろ・7才)
- ・背が伸びたよ!! (れお・4才)
- ・オムツを卒業しそうだよ!! (らい・3才)
- ・少年野球チームの御成オールキッズの試合中に苦しむ味方投手に
「一人じゃないぞ、みんないるぞ」と励ましたよ (りゅうと・11才)



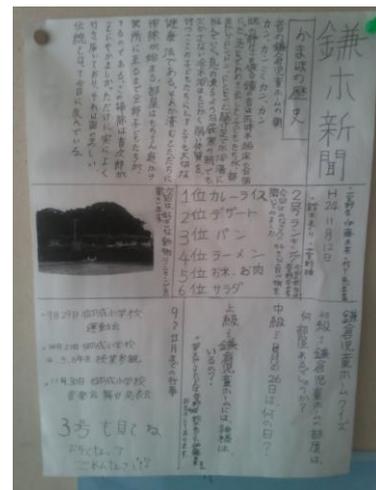
子どもたちのリアルボイスを読めるペーパー!!

「鎌倉新聞」発進

子ども新聞が発行されました。

主な掲載記事は、「かまほの歴史」
「(好きな遊びや食べ物などの) 人気ランキング」
「各家からの一言」などがありますが、
注目は、「鎌倉児童ホームクイズ」です。
クイズは、初級から上級に別れて出題されており、
筆者は初級と中級はクリアできましたが、
上級の「鎌倉児童ホームには神様はいるの?」に、
苦戦(?)しています。

答えが知りたい方、新聞を読みたい方は、
当ホームに遊びにいらしてください。





いまなにしてる？

140

投稿する



@yama-chan 招待行事が多くある！たくさんの寄付に支えられている！

鎌倉児童ホームは、様々な他機関の協力により、ディズニーランドやサッカー観戦の招待などをしていただいています！本当にありがとうございます！また、衣服や金銭の寄付も頂き、地域に支えられている施設だと感じました！職員と個別外出が少ない分、こうした招待行事が子どもの楽しみになっています。本当に助かっています。

2hours ago



@chizuko-ne 手続きに手間が掛る....！

とにかく手続きに時間や手間がかかることが多いです。事情によっては市役所を何往復もしたり、携帯の手続きに何往復もする必要があったり....一人で勤務している時にはあまり出来ない業務なので、更に手続きが長引いてしまう時もあります....

3hours ago

読み込み中...

★夏祭り★ の お知らせ

鎌倉児童ホームでは毎年8月の最終日曜日に**模擬店**や**人力車の乗車体験**などが行える**夏祭り**を開催しております！模擬店では某ラーメン屋を愛する職員が**ラーメン**を作っています！是非！脚をお運びください！

<日時>

8月25日(日)

13:00~18:00

開催！

ボランティアさん大募集！

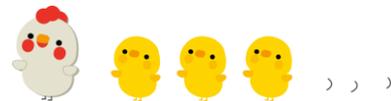
鎌倉児童ホームでは、定期的に来ていただけるボランティアさんを募集しております。

「1対1の学習ボランティア」「清掃なども含む家事のボランティア」「子どもたちの日常生活全般に関わる生活ボランティア」「夕方に外で遊ぶボランティア」など様々な形でご協力いただきたく思います。

お問い合わせ

鎌倉児童ホーム（電話：0467-22-0424 E-mail：kamakura@seionkai.or.jp）担当：山神まで

鎌木の職員紹介



このコーナーでは、鎌倉児童ホームの職員をご紹介します。

皆さんにわれわれ職員のことを知っていただくことで、より身近に感じてもらえると嬉しいです。

今回は、「シオンの家の池田渉」と、「今年度新しく仲間入りした瓜生枝梨子」の2人です。

※2人の近影は職員の林豊（はやしゆたか）によるイラストでご紹介いたします。

似ているか否かは、当ホームで直接、ご確認ください。



はじめまして。保育士の池田渉(いけだ わたる)です。

鎌木で働かせていただいて8年目になりますが、気持ちはまだまだフレッシュです！！

出身は「寒川神社」「寒川セントラルボウル」で有名な寒川町です。好きなことは、ラーメン作りやラーメンに対して熱く語ることです。小学校からサッカーもやっていたのでサッカーをするのも好きです。毎日、子どもとグラウンドでサッカーをしたり、一緒に体を動かしたりして過ごしています。また、他愛もない話をして笑い合っています。

日々のやり取りの中で、「笑い」を大事にしていますが、「笑わず」ことより、「笑われる」ことの方が多いかもしれません。



こんな私ですが、どうぞ宜しくお願いします！



はじめまして。この4月から、新しく鎌木に来た瓜生枝梨子(うりゅう えりこ)です。

好きなものは猫、好きな色は緑色、好きなことは絵を描くことや物をデザインすること、ピアノも少しやります。普段は事務所で電話対応や来客対応・他雑務などしているため、子どもたちと接する時間は比較的短いのですが、空いた時間に子ども達と鬼ごっこ等をして遊んでいます。体力の無さを感じながらも、子どもたちのパワーに触れて励まされています。早く仕事に慣れ、子どもたちとの時間を増やしていければと思っています。まだまだ未熟ですが、たくさんのことを学んでいきたいと思っています。



どうぞ宜しくお願いします！

(構成 佐々木)

編集後記

今号より、コミュニケーション委員会が広報誌の構成を担当させていただくことになりました。

「みなさまに、もっと、気軽に立ち寄っていただきたい」「みなさまと、もっと、知り合いたい」との気持ちで作成いたしましたが、「何を、どのような形で、お伝えすれば良いのだろうか？」と、まだまだ、試行錯誤の段階です。

日頃、大勢の方々にホームの運営のご協力をいただきながらも、その活動の全てをご紹介しきれず、大変申し訳ございません。当ホームの成長とともに紙面の成長も見守って頂けると幸いです。

今後も「明日へ」をお楽しみください。(豊本)

鎌倉児童ホームコミュニケーション委員会